The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	情報活用基礎A(応自１セメ）を担当して
Author(s)	押鐘, 寧
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2011, 12, p. 45-45
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70321
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

情報活用基礎Ａ（応自１セメ）を担当して

押鐘 寧（大阪大学 大学院工学研究科 精密科学・応用物理学専攻）

平成22、23年度と、応自の第1セメスタに開講されている「情報活用基礎A」を、CMC1階の情報教育教室（第1）で担当、実施した。両年度の実施内容は、この講義の設立以来、検討・改良が重ねられた結果として、概ね以下の通りであった。

1.ガイダンス、パスワード変更
2.Web、メール、検索（応自の研究室のWeb閲覧）
3.図書館活用法（図書館職員による説明）
4.文書作成（英語論文アブストラクトの和訳）
5.プレゼンテーションA（説明と班分け）
6.作業日（プレゼンの作成作業）
7.プレゼンテーションA 発表会（前半）
8.プレゼンテーションA 発表会（後半）
9.プレゼンテーションB（班再編, 企画書作成）
10.作業日（プレゼンの作成作業）
11.作業日（プレゼンの作成作業）
12.プレゼンテーションB 発表会（前半）
13.プレゼンテーションB 発表会（後半）
14.情報倫理に関するWebCTコンテンツ視聴
15.同上（視聴の感想と関連事例の調査）

応自の各研究室のHPを閲覧した感想、ランク付けなどをワードファイルにまとめて報告、英語論文のアブストラクトを和訳して関連情報を調査添付してpdfファイルで報告、といった作業をメールで行わせた。その後、パワーポイントによるプレゼン中心の演習へ移行した。プレゼンAでは、クラス内を4人程度の班に分け、社会的に関心の高い、科学技術系を中心としたタイムリーな話題を提供して、それらの背景、解説、現状、利点、問題点などのスライドを準備させ、各班5分で発表させ質疑応答も行った。プレゼンBでは、プレゼンAの結果を踏まえて、発表したいテーマの希望を募り、班を再編して、賛成、もしくは反対の立場を明確にしたプレゼンを準備、発表させた。

教室によっては、同じテーマについて賛否両班を編成し、ディベート色を強めていたようである。プレゼンA、Bともに、評価シートを配布して、各班の発表内容について全員に審査させ、自己評価も行わせた。プレゼンに含める情報を、ネットなどで検索、収集し、流れを構成させてプレゼンにまとめさせる内容は、およそ講義名に即した授業になっていると思う。何回かのプレゼン準備作業の回には、各班に分かれた顔をつきあわせての作業となり、入学して間もない学生間のコミュニケーションが深まる点で、とても良い場を与えているようにも思った。

ただ、発表後の質疑応答の場面になると、下調べ、下準備、本当の自分の意見というものがない事実が浮き彫りとなり、情報の受け売り、並び替え、巷の議論のコピー以上のものではない発表が少なくなく、情報「活用」なのだろうか？と疑問に思ったこともあった。また、インターネット、電子メール、ワープロ、プレゼンは、昨今の生活や教育環境を鑑みるに、大学1年生は、それなりの経験を積んでいるようなので、大学生活後半のためにも、エクセルもしくはデータ処理ソフトによる、簡単なデータ処理の演習を組み込めたらと思った。さらに、学生とのメールでのやりとりの中で、携帯電話等の影響であろうが、砕けすぎ？一言のメモ？といった文面や、不自然な謙譲語、丁寧語が多々見られ、社会的なマナー、秩序、ルールに則したメール（文書）のやりとりを、こんな社会だからこそきちんと教え込む、修正してやることが大事だと思った。

4年生以降の研究室の学生でさえ、「ため口」「話し言葉」「会話の一部」といった類のメールを送信してくる例が多く、就活での会社等とのやりとりにおいて、きちんとした対応ができているのかと心配な昨今、大学生活スタート時の学生は、かくも幼稚なるかと、社会人へ近づいてゆく緊張感の盛り上がりに欠けた状況に、甚だ落胆した。相手があっての情報活用・伝達であり、社会的みみず腫れの防止に繋がる側面も有した、情報教育系の講義であることを願ってやまない。